

木材利用の活動報告

地材地消推進活動の取組による波及効果について

空知総合振興局 森林室 小林順二

取組の背景・目的

- ◆ 一般民有林のカラマツ資源が成熟化（8 齢級以上が82%を占める）
- ◆ 管内のカラマツ生産量は約46,000m<sup>3</sup>、消費量は約3,000m<sup>3</sup>で、管内ではほとんど利用されていない
- ◆ 市や町営住宅の一部は老朽化のため建て替えが図られているが、そのほとんどが鉄筋コンクリートや外材を使用した住宅

目的

地材地消の推進・地材地消意識の定着

取組の内容

芦別市をモデル地区として、4年間継続して地材地消推進活動を実施

- ◆ 地材地消検討委員会を設立
  - ・ 建築用材としてのカラマツ資源量の把握
  - ・ 地材地消やカラマツ材のPR活動
  - ・ アンケートや聞き取り調査

■ カラマツ資源量の把握



調査風景

51年生以上・0.5ha以上の林分  
対象：94箇所 107ha

■ 地材地消等のPR活動



地材地消体験バスツアー

・ 地材地消体験バスツアー  
・ 林産セミナー 等

■ アンケートや聞き取り調査



林産セミナー

・ 地域住民・セミナー参加者  
・ 工務店・木材問屋 等

取組の成果

- ・ 資源量の把握（登録林分 → 13箇所、約7,000m<sup>3</sup>）
- ・ 流通・加工システムの確立
- ・ カラマツ材を扱う工務店が増加（1社→7社）
- ・ 私有林からカラマツ建築用材を産出（使用:106m<sup>3</sup>）
- ・ 夕張市有林のカラマツ材を使用した市営住宅の建設（使用量：223m<sup>3</sup>）
- ・ カラマツが建築用材として認知

今後の展開

課題

- ・ カラマツの使用量が少ないため製品価格が高い
- ・ 部材のストック量が少ないため施工がスムーズに行かない
- ・ 地材地消により住宅建築を行っている地域と、他の地域では認知度に格差がある。



- ・ 多くのカラマツ住宅が建築されるよう地材地消活動の継続及び更なる推進
- ・ 活動範囲を拡げたPR活動